



け、市民の皆様を元気付けられるような事業を展開していきたいと考えております。

いづれにいたしましても、今年が羽村市にとって良い年となりますよう、全力を傾けてまいりますので、市民の皆様におかれましては、将来の輝かしい羽村市を創造していくため、より一層のご理解とご協力をお願いいたします。

司会 それでは、お二人を紹介いたします。

昨年成人式を迎え、新たな気持ちで学業や仕事に励んでいる、若いお二人にお越しいただきました。高井天音さんと鈴木紗奈さんです。みなさんよろしく願います。

いま音楽に夢中!!



たかい あまね
高井 天音さん

羽東在住
国立音楽大学演奏学科2年生

トロンボーンを専攻し、国立音楽大学ニュータイドジャズオーケストラで活躍中。

そのほか、自らのユニットでの活動を中心に、各地のライブハウスなどで積極的に演奏活動に取り組む若手音楽家です。

司会 それでは、まず、高井さんにお聞きします。高井さんが専攻しているトロンボーンという楽器は、どのような楽器なんですか。

高井 トロンボーンは中型の金管楽器で、オーケストラから最新のポピュラーミュージックまで、幅広い分野で使われている楽器です。

市長 楽器にもいろいろな種類があると思うのですが、高井さんは、なぜトロンボーンを選んだのですか。

高井 中学校の吹奏楽部で、初めは別の楽器を担当してい

ましたが、部の全体のバランスを考えて、トロンボーンを担当することになりました。

練習を続けていくうちに、だんだんと楽しくなってきたので、現在も続けています。

司会 高井さんが現在所属しているバンドは、日本の学生ビッグバンド・ジャズオーケストラを対象とした有名なコンテストで、4連覇という快挙を成し遂げているんです。

市長 そうですか。バンドやオーケストラは、一人の力だけでは結果を出すことが難しいですね。

そういった、皆と一緒に取り組みことで、勉強になったことはありますか。

高井 オーケストラと一緒に演奏する友人はもちろん、ライブ活動の場所を提供してくれるお店の方など、多くの方にお世話になって初めて成り立つ音楽活動なので、コミュニケーションの大切さを強く感じています。

音楽のもつ魅力とは？

市長 高井さんにとって音楽の魅力とは何ですか。

高井 その場にながら全く違う世界に行くことができるということですね。曲にはそれぞれ違った世界があって、楽曲を聴いて、その曲の世界をさまざまにイメージできるところが楽しいですね。

市長 とても素晴らしい考え方ですね。市政運営にも共通するところがあります。

音楽には、楽曲ごとにそれぞれの世界があって、そのイメージを感じとれないと曲の良さを伝えられないということですが、市政運営も、市民の目線に立って、相手の気持ちを考えながら仕事をしなければ、より良いまちづくりにはつながりませんから。

司会 (鈴木) 紗奈さんから高井さんに何か尋ねてみたいことはありますか。

紗奈 高井さんは、ライブ活動などで自分の音楽を人に伝えるとき、どのような気持ちになりますか。

高井 私は、その場にながら全く違う世界に行くことのできる音楽の魅力を、お客さんにも感じてほしいと思います。から演奏しています。

司会 それでは、ここからは、紗奈さんにお話を伺っていきたいと思います。





すずき さな
鈴木 紗奈さん

羽東在住

イラストレーター「SANA」として、井の頭公園のアートマーケットに参加するほか、各地で作品の出展や販売活動を行うなど多方面で活躍中。昨年、第95回二科展デザイン部門で、見事入選を果たすなど、さまざまな賞を受賞しています。

二科展に見事入賞!!

司会 紗奈さんは、昨年、二科展のデザイン部門で見事入選を果たしましたが、その「孔雀と夕陽」という作品をどのような想いで描かれたのですか。

紗奈 二科展では『美しい』をテーマに描きたかったので、美しい羽を持つ孔雀くじゃくをモチーフにして描きました。

市長 紗奈さんの動物への想いが伝わってくるすてきな作品ですね。入選したときの気持ちはいかがでしたか。

紗奈 二科展という大きなコンクールに入選できてとてもうれしかったです。

国立新美術館というすてきな展示会場に自分の作品が飾

られて、多くの人に見てもらえると思ったら、うれしきで胸がいっぱいになりました。

市長 いろいろな人たちの作品を見たり、自分の作品を見てもらったりすることは、さぞ勉強になったんでしょうね。

紗奈 二科展ではとても良い刺激をもらいました。

応援してくださるファンの方にも良い報告ができましたし、多くの人と出会うことができ、コミュニケーション力もついたと思います。

市長 私も、「市長とトーク」や「タウンミーティング」な

どで、市民の皆さんとお話をする機会がありますが、必ず相手の顔をよく見て、表情を確かめるように心掛けています。コミュニケーションは、一方通行では成り立ちませんからね。

これからも、多くの人たちとコミュニケーションを図って、さまざまな活動に生かしてください。



紗奈 ありがとうございます。

市長 紗奈さんは、自分の作品を購入してもらって、何か感じたことなどはありますか。

紗奈 自分の絵を買ってくれた皆さんが笑顔になって

くれるんです。また、私の作品を気に入って、絵を喫茶店に飾ってくれる方もいて、そうした方の笑顔を見ると私もうれしくなって、創作意欲が湧いてきます。

司会 紗奈さんが、イラストレーターになりたいと思ったきっかけは何だったんですか。

紗奈 高校2年生の時に初めてコンクールに出した作品が最終審査に通って、その作品が出版物になって戻ってきたことがきっかけになりました。周りの人たちに少しでも自分の作品が認めてもらえたのかなと自信になりました。

市長 自信をつけることは大切ですよ。その経験が、今回の二科展入選につながっているのではないですか。

今、紗奈さんにとってアートとはどのような存在ですか。

アートは生活の一部

紗奈 私にとつてのアートは、生活の一部となっていて、無くてはならないものです。



それと同時に、高齢の方から小さな子どもたちまで、多くの人たちと出会うことができるツールでもあるんです。

司会 今度は高井さんから紗奈さんへの質問をどうぞ。

高井 紗奈さんが、これからさらに挑戦してみたいことは何ですか。

紗奈 チャレンジしてみたいことはたくさんあります。

私のキャラクターたちを動画で動かしたり、絵本にして子どもたちに読んでもらったり、キャラクターグッズにして多くの人の手に届けられたりしたいなと思っています。